



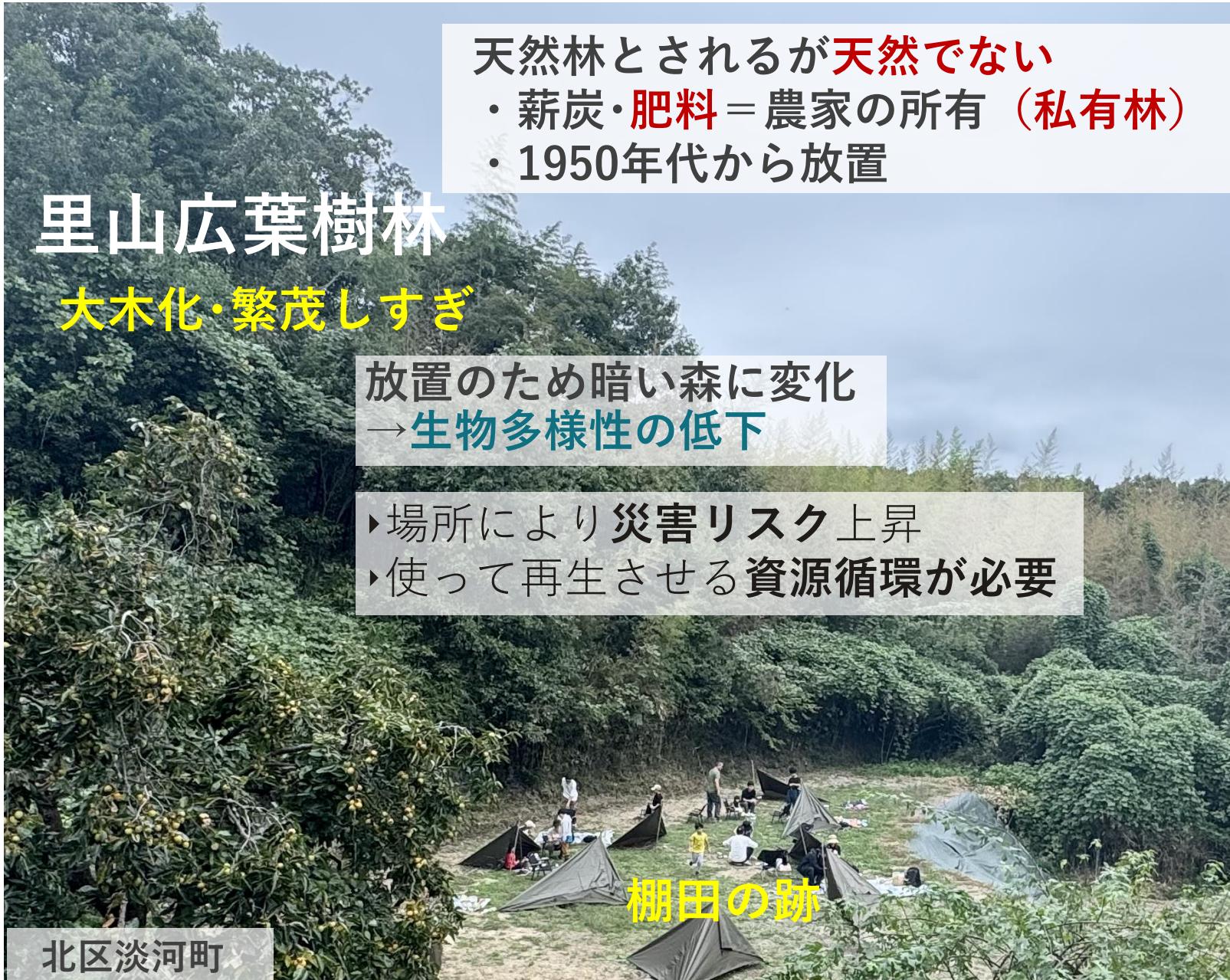
KOBE WOOD



里山資源の活用の必要性

林業の場所

- ・針葉樹（スギ・ヒノキ＝建築材）
- ・神戸では森林面積の1割



神戸市の森林をめぐる課題

森林は市域の4割, 2万ha

- ✓ 広葉樹林が9割
- ✓ 6割が私有林



税金による森林整備
では100年以上かかる

里山管理を再開するには
地元の収入が必要

そこで
＊ 広葉樹材の販売
＊ キャンプ場など観光資源として
の活用

資源循環を取り戻して循環型社会へ

再生可能な資源を持続的に利用すること。
リサイクルとは異なる。

日光 光合成で
木が育つ



次世代林の育成～資源化
→**資産価値**を上げる

神戸市が舵を切る方向

資源循環型の社会&経済

1970年代から輸入依存の生活
大量生産・消費
木材輸入 (国内資源を放置)



お金の流れ
海外企業・商社

持続可能な社会か？
安全・安心な生活か？

サーキュラーエコノミー

「資源の価値把握」と「流通を作る」神戸スキーム

- 植林ではなく、今ある大量の資源をまず使う（リセット伐採）
- 資源の質と量を伐採前にデジタルデータ化→販売



- ▶ 新たな流通システム
売れたら管理できる
…行政が伴走
- ▶ トレーサビリティ

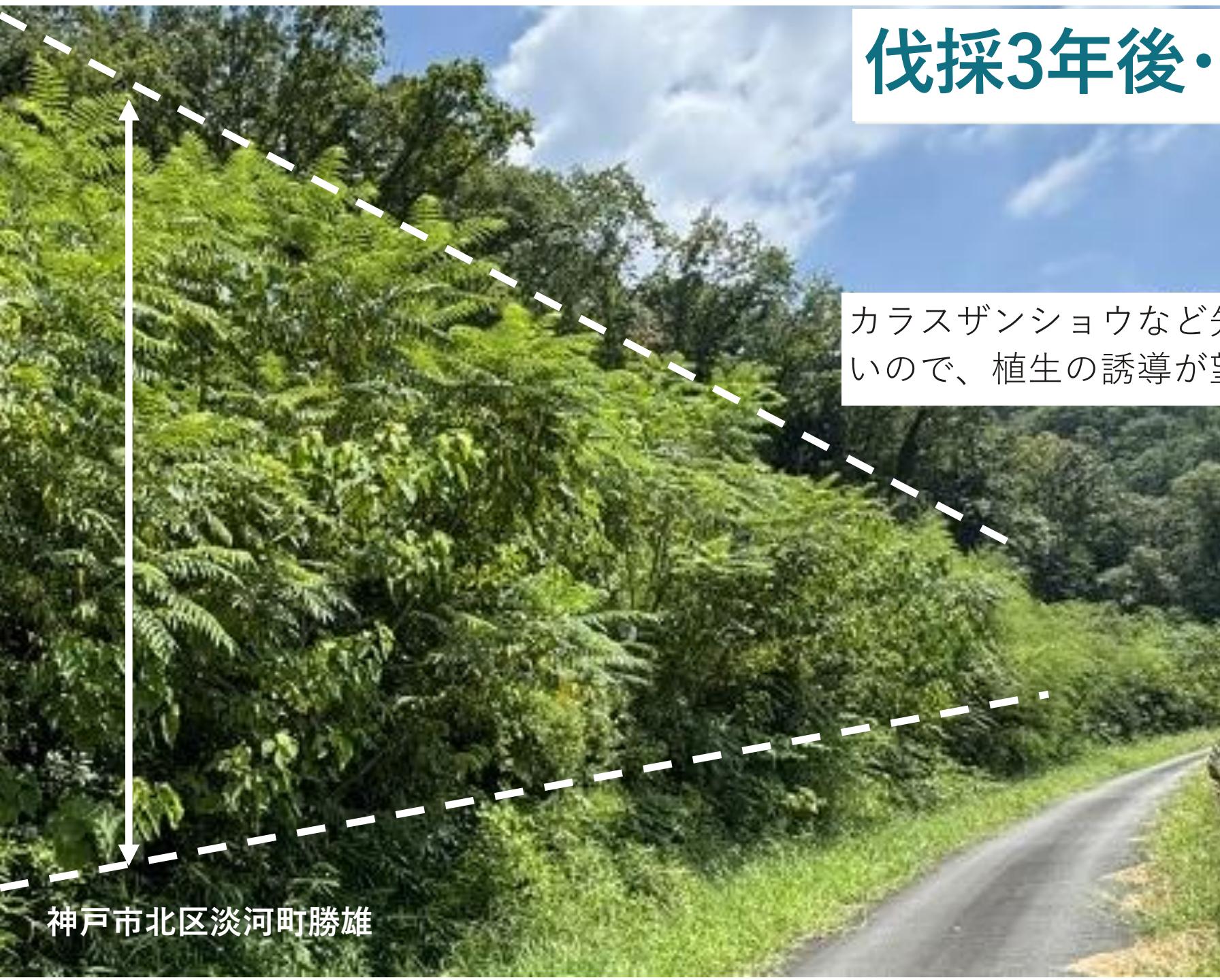


神戸で“今風”資源利用 ▶ 持続可能かつビジネスに



伐採3年後…森林再生へ

9



前のスライドと同一場所
2024年8月1日撮影

カラスザンショウなど先駆種が多いので、植生の誘導が望ましい



神戸市北区淡河町勝雄

活用の選択肢：カシ類でKOBE備長炭の生産

○付加価値の高い備長炭(白炭) 2千円/kg

▶神戸ビーフなどと地産地消が可能



○6トンの試し生産2回

▶事業者モニターで好評



– 神戸市で備長炭用炭窯設置の計画 –

森林資源の循環的利用を目指した事業

▶産業化



株式会社 四国の右下木の会社（徳島）
と事業連携協定を締結（2025.7.8）

